

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地			
キャットミュージックカレッジ専門学校		昭和63年3月30日	美根 宏史	〒 564-0062 (住所) 大阪府吹田市垂水町3-29-18 (電話) 06-6369-1101			
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地			
学校法人大阪創都学園		昭和63年3月30日	鈴木 雅文	〒 564-0062 (住所) 大阪府吹田市垂水町3-29-18 (電話) 06-6369-1101			
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
文化・教養	文化・教養専門課程	音楽技術学科	平成17(2005)年度	-	平成26(2014)年度		
学科の目的	教育基本法、及び学校教育法に基づき音楽技術スタッフに関し必要とされる技能を養成し、又は教育の向上を図ることを目的とする。						
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	主な学修成果 音楽業界で就業可能な技術を習得する。 令和5年度中退率 3.0%						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	※単位数、単位いずれかに記入 1,880 単位数 - 単位	240 単位数 - 単位	240 単位数 - 単位	1,400 単位数 - 単位	0 単位数 - 単位	0 単位数 - 単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)				
80人	58人	0人	0%				
就職等の状況	■卒業者数(C)		36	人			
	■就職希望者数(D)		33	人			
	■就職者数(E)		27	人			
	■地元就職者数(F)		19	人			
	■就職率(E/D)		82	%			
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		70	%			
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		75	%			
	■進学者数		0	人			
	■その他						
	フリーランスでのスタッフ活動等 (令和5年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報) ■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) 音楽・エンタテインメント業界						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載		0				
当該学科のホームページURL	〇〇〇〇						
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位数による算定)						
	総授業時数		1,880 単位数				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		1,320 単位数					
うち企業等と連携した演習の授業時数		240 単位数					
うち必修授業時数		1,880 単位数					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		1,320 単位数					
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		240 単位数					
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位数					
(B: 単位数による算定)							
総授業時数		- 単位					
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		- 単位					
うち企業等と連携した演習の授業時数		- 単位					
うち必修授業時数		- 単位					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		- 単位					
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		- 単位					
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		- 単位					
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		5人				
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		1人				
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0人				
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0人				
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		1人				
	計		7人				
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		4人					

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程編成委員会においては、本校教育課程充実に向け、各学科関連業界との連携を密にし、現状カリキュラムの確認や今後取り入れていくべき内容についての闊達な意見交換を行う。また、審議内容についての本校教育課程への導入等について審議していくものとする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

本委員会は、各学科ごとに実施運営される。本委員会にて決議した内容については学校長へ答申し、学科別会議や各専攻分会、授業別会議等において、内容等について審議したうえで教育課程編成に可能な範囲で反映していくものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年8月31日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
井筒 稔晴	一般社団法人日本音楽スタジオ協会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
里見 匡一	有限会社パブリックミュージックワークス	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
平沼 正裕	アームジョブユナイテッド株式会社	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
井尻 健作	株式会社スタジオアッシュ	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
森 久誌	株式会社 フォレスト	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
白藤 浩史	教務部副主任		—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(10月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和5年10月12日 14:00～15:30

第2回 令和6年3月28日 14:00～15:30

0

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

意見:エンタテインメント業界の現在の動向を踏まえ、レーベルやプロダクションがどのように新人発掘を行っているかを注視していく必要がある。それに合わせた制作、プロモーションなどをスタッフとしての目線ととらえ、指導していくことが必要になると思われる。

活用状況:現在もSNSを使った発信について、様々な授業で取り上げているが、学科を超えた運動を行うことでより実践的な学習につながるように学内行事等の活用について検討を進める。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校は、カリキュラム構築・個別授業構築において業界関係企業との連携を密にし、実践に対応した教育内容を提供するために努力していく。また、内容に応じて業界関係企業と提携し、実技・実習・演習等の運営を委託し実施していく。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

・講師派遣における学内授業の実施・特別実習における専用施設を使用した実習の実施及び講師派遣・前後期試験の実施、作品/実習等における採点、出席率等総合評価を行う

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
レコーディング実習	録音スタジオでの所作から始まり、周辺機器の取扱いや操作方法、その効果を学びます。音楽的な内容が数多く現れる現場として、その作業の進め方を学んでいきます。	Studio INSPIRE
照明実習	機材の解説や舞台機構の説明など基礎的な部分から始まり、反復練習を行いながら2年間で照明スタッフとして必要な技術を身につけます。2年次は音響と合同でイベントをイメージした授業展開を実施します。	有限会社 ミス・ユー
コンサート制作	学外のホール、ライブハウスなどでのイベントを企画開催します。予算管理、アーティストブッキング、プレイガイドでのチケット発券、宣伝、制作、当日の運営までを実習として行います。	有限会社 ヘッドライン
クラフト実習	スタンダードモデルのコピーからフルオリジナルまで、ギター・ベースの製作を行います。具体的な工具の使用法、木工加工、塗装や組み込み等の製作工程などを基礎から順序を追って学びます。	松原工房
技術演習	エレキギター・ベースと周辺機器、音響機器などの電気回路について学びます。また、エフェクター製作やアンプ等の修理を通して基本的な電気回路の設計や半田付けの技術などを習得します。	カナヤ光輪株式会社LM楽器部 2nd factor

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教職員が学校の基本方針を理解し業務を遂行する上において、自身の自己研鑽に努めることの必要性を理解するとともに、学生・生徒の人材育成において必要な知識や技術の習得を目的とする。また、全体での実施はもちろん、自己研鑽における自発的な研修参加や音楽活動等についても業務に支障のない範囲でバックアップする。教員は、キャットミュージックカレッジ専門学校「授業運営に関するガイドライン」に基づいて、学園又は各種団体等の研修を受け、資質の向上に努めていく。計画は教務部が定める年間行事予定において示される。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	サウンドメッセ2023	連携企業等:	サウンドメッセ実行委員会、GEN事務局 他
期間:	令和5年5月13日～5月14日	対象:	クラフト技術指導教員 1名
内容:	国内外の楽器工房・メーカーの製品展示会		
研修名:	京都大作戦	連携企業等:	地域環境デザイン研究所 ecotone
期間:	令和5年8月17日～8月20日	対象:	教務職員4名
内容:	大型フェスイベントでの環境対策へスタッフ参加し、音楽イベント開催時の地域環境対策について知見を深める		
研修名:	SUMMER SONIC	連携企業等:	キョードー大阪
期間:	令和6年1月25日	対象:	演奏指導教員2名
内容:	大型音楽フェスにおける運営方法やスタッフのオペレーションについて学ぶ		
② 指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	テーブルマナー講習	連携企業等:	東急REIホテル
期間:	令和6年1月15日	対象:	教務教員2名
内容:	取引先との会食など様々な場面でスマートな振る舞いで食事をする「たしなみ」を覚える		
研修名:	「子供たちの課題」に関するセミナー	連携企業等:	株式会社 ウェーブブリッジ
期間:	令和6年3月26日	対象:	全学科教員90名
内容:	中高生の行動特性の変遷などに関する講習。		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: サウンドメッセ2024	連携企業等: サウンドメッセ実行委員会、GEN事務局 他
期間: 令和6年5月	対象: クラフト技術指導教員 1名
内容: 国内外の楽器工房・メーカーの製品展示会	
研修名: 京都大作戦	連携企業等: 地域環境デザイン研究所 ecotone
期間: 令和6年7月	対象: 教務職員4名
内容: 大型フェスイベントでの環境対策へスタッフ参加し、音楽イベント開催時の地域環境対策について知見を深める	
研修名: SUMMER SONIC	連携企業等: キョードー大阪
期間: 令和6年8月	対象: 教務職員4名
内容: 大型音楽フェスにおける運営方法やスタッフのオペレーションについて学ぶ	
② 指導力の修得・向上のための研修等	
研修名: テーブルマナー講習	連携企業等: 東急REIホテル
期間: 令和7年1月	対象: 教務教員2名
内容: 取引先との会食など様々な場面でスマートな振る舞いで食事をする「たしなみ」を覚える	
研修名: Z世代の育て方講座	連携企業等: ハローライフ
期間: 令和7年3月	対象: 全学科教員90名
内容: Z世代の価値観に合わせた育成方法や指導方法についてのセミナー	

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価においては、本校にて実施している自己評価(学校運営・教育活動・学生支援・教育環境・学生の受け入れ募集など)を基に、業界企業・教育団体・地域との連携による教育活動など、本校の活動について説明。そして、さらなる教育活動へつなげていくために様々な角度からその運営が適正に行われているのか等、審議・助言いただき、今後の発展・改善に寄与していく。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受け入れ募集	学生の受け入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	※該当なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

意見: 音楽業界以外への就職希望者への対応はどのようになっているのか

活用状況: 音楽、エンタテインメント業界への進路を希望するものが大きな割合を占めているが、一般就職の希望者があれば個別に指導をして対応する。また、アーティスト活動に理解のある製造業や派遣業の会社からの求人もあるので、就職しながら音楽やダンスの活動を継続するケースも増えてきている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
三原 淑治	エム・アイ・プランニング株式会社 代表取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
東 龍太郎	RITA学園高等学校 副校長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	校長等
高橋 国明	第6期生(1994年卒業)(株式会社白竜社取締役)	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	卒業生
石井 博章	江坂企業協議会 副会長 株式会社マルエス サニーストーンホテル 代表取締役社長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	地域関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.cat.ac.jp/data/>

公表時期: 随時

授業科目等の概要

文化・教養専門課程 音楽技術学科																	
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任			
1	○		音楽業界概論	音楽業界の歴史的背景や成り立ち、そして、業種の仕組みやその関連業種等についても学びます。著作権、流行、ソーシャルメディアへの対応も含め業界への指向を深めていく内容です。	1・2年 通年	120	8	○			○		○				
2	○		音楽技術論	スタッフに必要な基礎知識の習得を目指します。音響学、専門用語を中心に現場作業での実演家に対応する能力を身につけます。	1・2年 通年	120	8	○			○		○				
3	○		技術演習	エレキギター・ベースと周辺機器、音響機器などの電気回路について学びます。また、エフェクター製作やアンプ等の修理を通して基本的な電気回路の設計や半田付けの技術などを習得します。	1・2年 通年	240	16		○		○				○	○	
4	○		ハード実習	機材のメンテナンスや現場での応急処置などをするにあたり、実際にケーブル製作や電子機器の作成を行いながらハードウェアに関する知識を習得していきます。	1・2年 通年	180	6			○	○					○	
5	○		ミキシング	デジタル音響調整卓の取扱いとミキシングの手順と手法を学習、アナログとの対比も含め、自分の耳で判断する為の音楽的知識も含めたものになっています。	1・2年 通年	120	4			○	○					○	
6	○		Pro Tools	D T M (H D Dレコーダー)の取扱いをProToolsを使って行います。C A T独自のシステムによる各学生への音源供給を行い、リアルな音楽環境を再現しています。	1年 通年	60	2			○	○					○	
7	○		PA実習	学校施設を中心に小規模から中規模程度までの仮設音響機器の取扱いや設営方法を学び、現場と同じような仕込みを繰り返して体感していく実習です。	1年 通年	120	4			○	○					○	
8	○		レコーディング実習	録音スタジオでの所作から始まり、周辺機器の取扱いや操作法、その効果を学びます。音楽的な内容が数多く現れる現場として、その作業の進め方を学んでいきます。	1年 通年	120	4			○	○					○	○
9	○		一般教養	仕事への取り組み姿勢、挨拶や敬語の使い方、電話応対、名刺交換の仕方などのビジネスマナーと共に、履歴書の書き方や面接の受け方など就職活動時に役立つスキルを学習します。	1年 通年	60	4		○		○					○	
10		○	レコーディング実習Ⅱ	録音作業を重ねることで、録音現場の統括力を養います。また、録音される音源の特徴を研究することや演奏者とのコミュニケーションについても勉強します。	2年 通年	240	8			○	○					○	
11		○	PA実習Ⅱ	ステージ照明／楽器等も考えた音響機器搬入、仕込み設営を行い他業種との現場の乗入れも理解します。サウンドチェック、リハーサル～本番を繰り返していきます。	2年 通年	240	8			○	○					○	
12		○	Pro ToolsⅡ	さまざまなProTools作業を理解して、個々の作業レベルを高めます。音楽制作に必要な表現能力を磨き、原盤制作や番組制作を勉強します。	2年 通年	120	4			○	○					○	

27	○		メディア制作	音楽雑誌やフリーペーパーの企画、取材、デザイン、編集を実践的に学びます。CDの盤面デザイン、ジャケット制作やライブイベントの宣伝フライヤーの制作に必要なDTPスキルを習得します。	2年 通年	120	4			○	○														
28	○		DTP	広報媒体制作やプロモーション手段として必要となるコンピュータソフトのIllustratorやPhotoshopの基本操作を学んでいきます。この授業は、他の制作実習にも連動していく内容となります。	1年 通年	60	4			○		○													
29	○		コンサート制作	学外のホール、ライブハウスなどでのイベントを企画開催します。予算管理、アーティストブックイング、プレイガイドでのチケット発券、宣伝、制作、当日の運営までを実習として行います。	2年 通年	120	4				○	○									○	○			
30	○		マネジメント	アーティストの発掘や育成、スケジュールなど、プロダクション業務を学習します。またレーベルの業務、プロモーション、ファンクラブ運営、各メディアの特性や著作権についても学びます。	1・2年 通年	240	8				○	○										○			
31	○		企画制作	実践的に企画制作を実施する授業。学内の様々な施設を使い、ライブイベントの企画、制作、実施を通し、制作者としての感覚や仕事の進め方を身に付けます。	1・2年 通年	120	4				○	○										○			
32	○		音響実習	ライブイベントを運営していく上で必要となる音響に関する基礎知識を学びます。音響機器類の扱い方を身につけ、音響スタッフとの打ち合わせや進行スケジュール作りに役立ちます。	1年 前期	30	1				○	○											○		
33	○		照明実習（音楽ビジネスコース）	ライブイベントを運営していく上で必要となる照明に関する基礎知識を学びます。照明機器類の扱い方を身につけ、照明スタッフとの打ち合わせや進行スケジュール作りに役立ちます。	1年 後期	30	1				○	○											○		
34	○		クラフト実習	スタンダードモデルのコピーからフルオリジナルまで、ギター・ベースの製作を行います。具体的な工具の使用方法、木工加工、塗装や組み込み等の製作工程などを基礎から順序を追って学びます。	1・2年 通年	600	20					○	○										○	○	
35	○		リペア実習	エレキからアコースティックまで、さまざまなギター・ベースの修理・調整を習得する授業です。作業を効率化するための工具製作や、基本的なリペアをより発展させた応用技術も扱います。	1・2年 通年	420	14					○	○											○	
36	○		音響基礎	音響に関する知識を学び、ステージで使用されるアンプや音響機器（ミキサー、マイク等）の取扱い等を習得、実際の現場を想定したアーティストとのコミュニケーション能力を高めます。	1・2年 通年	180	6					○	○											○	
37	○		イベント制作	学生たちの自主性を重視したかたちで様々なイベント・コンテンツ等の発表を行います。互いに協力し企画・立案から実施運営に至るまでの内容を学びます。	1・2年 通年	80	2					○	○											○	
38	○		業界研究	依頼される学内外のクライアント主導イベントの制作業務、ガイダンス参加、業界での必要な資格取得への取り組みなど自身の視野を広げる職種研究を行います。	1・2年 通年	136	4					○	○											○	
合計						13 科目				76 単位（単位時間）															

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
学則、第21条、第22条に則り、各学期末の試験結果及び所定の出席日数により決 卒業要件： 定する。尚、各科目の試験などの内容については、各学科長及び担任と授業担務 者が打ち合わせの上、決定する。		1学年の学期区分	2期
履修方法： 定められた授業時間割を元に年間カリキュラムを履修。		1学期の授業期間	15週

（留意事項）

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。